

平成31年3月8日

保護者の皆様 地域の皆様

仙台市立南吉成小学校
校長 後藤 景子

平成30年度 協働型学校評価 報告

早春の候、保護者の皆様、地域の皆様には、日頃から本校の教育活動に対して、ご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、本年度、取り組んできた「協働型学校評価」について結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

皆様には、取組はもちろん評価アンケートへのご協力をいただきありがとうございます。本報告に目を通していただき、現在の南吉成小学校の子供たちの姿を知っていただきますとともに、更なる子供たちの成長のためには、学校・家庭・地域が、それぞれの立場で何をしていくことが必要か一緒に考えていければと思います。「子供たちのために」これからもご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

I 平成30年度 学校評価アンケート結果について

- 1 全体的傾向
- 2 重点目標について
- 3 改善のための取組に関する記述
- 4 来年度の重点目標に関する記述
- 5 平成30年度「協働型学校評価 重点目標と取組」の成果と課題について
- 6 平成31年度「協働型学校評価 重点目標と取組」について

II 結果の実際

- 1 平成30年度 学校評価アンケート結果（表とグラフ）
- 2 保護者 記述
- 3 地域住民 記述
- 4 職員 記述

III 学校関係者評価委員会 記録



平成30年度 学校評価アンケート結果について

1 全体的傾向

児童の姿について、肯定的回答（「とても」「まあまあ」※以後肯定的回答と表記）は、児童：77～96％、保護者：69～94％、地域：74～100％、職員：75～100％の範囲にあり、全体的には、児童の自己評価も保護者・地域・職員の他者評価も、概ね肯定的な評価であった。

但し、「とても」だけを見ると、

児童：40～75％、保護者：21～80％、地域：6～58％、職員：3～38％であり、児童と保護者に比べて、地域・職員の評価が低い傾向にある。児童が自分自身、保護者が我が子という「個」を評価しているのに対して、地域や職員は南吉成小学校の子供たちという「集団」を評価していることが影響していると考ええる。

また、児童の自己評価において、全項目で「まったく」がある（2～9％）。多くの児童が自分の現状を肯定的に評価しているが否定的に捉えている児童が確実にいる。そうした児童を把握し対応していくことが課題となる。

2 重点目標について

(1) 通学路や学校で誰にでも進んで挨拶する子供の割合を80％以上にする。

① 誰にでも挨拶をしているか。 ② 自分から挨拶しているか。

	とても	まあまあ	あまり	まったく		とても	まあまあ	あまり	まったく
児童	41	47	10	2	児童	47	39	10	4
保護者	24	58	17	1	保護者	21	55	22	2
地域	30	48	22	0	地域	26	48	26	0
職員	21	65	15	0	職員	21	71	9	0

①については、肯定的回答は、児童・保護者・職員は80％を超えている。地域は80％に到達していない。地域での低さの要因を明らかにするとともに地域における「誰にでも」の範囲をどこまでとするか大人が共有するとともに、子供にどのように伝えたらよいかを検討する必要がある。

②については、肯定的回答は、児童・職員で80％を超えている。保護者・地域は80％に到達していない。学校ではできているが、家庭や地域ではできていない要因を明らかにし、改善の取組を進めていくことが課題となる。

(2) 目当てを持って一日一回以上校庭で運動する子供の割合を75％以上にする。

①めあてを持って校庭で運動しているか。 ②一日一回以上校庭で運動しているか。

	とても	まあまあ	あまり	まったく		とても	まあまあ	あまり	まったく
児童	53	24	15	8	児童	59	19	14	9
職員	14	64	21	0	職員	29	46	25	0

①②ともに肯定的回答は、児童・職員ともに75％を超えている。「とても」と「まあまあ」の比率が逆転している。職員が「とても」と評価する姿を具体的に児童に示していくこと、達成のための取組を具体化していくことが課題となる。

(3) 子供を一人の人間として認め、尊重する言葉遣いをする保護者の割合を80%以上にする。

①子供の考えや気持ちを引き出すような接し方をしているか。 ②子供との言葉遣いに気を付けているか。

	とても	まあまあ	あまり	まったく			とても	まあまあ	あまり	まったく
保護者	13	70	18	0		保護者	20	62	18	0

①②ともに肯定的回答は、80%を超えている。「まあまあ」が「とても」になるよう、今後も「認め、尊重する」ことを意識して子供と関わっていくことが望まれる。

(4) 徒歩通学を奨励し、子供の体調管理に努める保護者の割合を80%以上にする。

①歩いて登校しているか。

	とても	まあまあ	あまり	まったく
児童	75	18	5	2
保護者	80	15	3	2

②子供に朝食をとらせているか。

③子供を毎朝元気に送り出しているか。

	とても	まあまあ	あまり	まったく			とても	まあまあ	あまり	まったく
保護者	88	10	1	0		保護者	76	21	2	1

④子供に規則正しい生活を送らせているか。

⑤子供に十分な睡眠時間を確保しているか。

	とても	まあまあ	あまり	まったく			とても	まあまあ	あまり	まったく
保護者	44	49	6	1		保護者	55	38	7	1

①②③④⑤どれも肯定的回答は、80%を超えている。「とても」と「まあまあ」の比率も「とても」の方が多いかほぼ同じである。子供の体調管理に対する保護者による働きかけや環境作りがしっかりととされている。今後もこの状況を維持していくことが望まれる。

3 改善のための取組に関する記述 ※詳細は別紙資料をご覧ください。

改善の項目	改善の取組
学校に来ることを楽しみにするために	家庭での働きかけ 学校生活の充実
誰にでも挨拶をするために	挨拶する環境作り 挨拶についての理解 承認
自分から挨拶をするために	挨拶する環境作り 挨拶についての理解 承認
相手のことを考えて行動するために	相手の気持ちを想像させる働きかけや環境作り 他者と関わる経験
学校で責任をもって役割を果たすために	
家庭で責任をもって役割を果たすために	家庭での役割の設定 承認
学校でしっかり学習に取り組むために	
家庭でしっかり学習に取り組むために	時間や場など学習する環境作り
進んで読書するために	時間や場など読書する環境作り 本の紹介
歩いて登校するために	歩くことへの障害を取り除く環境作り
地域行事に参加するために	保護者の関心を高める働きかけ
めあてをもって運動するために	めあてを持たせる工夫 運動を促す環境や活動の工夫
一日一回以上校庭で運動するために	運動を保障する環境の工夫 実態に即した目標の設定

○記述を分類したものになります。今後の改善のための取組に生かしてまいります。

4 来年度の重点目標に関する記述 ※詳細は別紙資料をご覧ください。

保護者	挨拶	思いやり	自己表出	主体性
地域	挨拶		自己表出	
職員	挨拶	思いやり	自己表出	

○記載の多かった意見です。来年度の重点目標を検討する上で参考にさせていただきます。

5 平成30年度「協働型学校評価 重点目標と取組」の成果と課題について

(1) 成果

挨拶については、年度当初から、上学年ほど、「進んで、元気よく、ていねいに」挨拶する姿が見られた。一年間を通して、下学年にもそうした姿が広がってきたことを感じた。上学年が下学年の手本となっていたこと、学校全体に「進んで、元気よく、ていねいに」挨拶することを当たり前とする雰囲気生まれてきたことによると考える。

運動については、年度当初から、始業前、業間休み、昼休みになると、昇降口前の縄跳び跳躍板で縄跳びをする子、一輪車に乗る子、鉄棒に取り組む子、ドッジボールや鬼ごっこや遊具遊びを楽しむ子の姿が見られた。一年間を通して、縄跳びや鉄棒、一輪車に取り組む子が増えるとともに、より難度の高い技に挑戦する姿が見られるようになった。子供同士で刺激し合ったり、実際に「できる姿」を目にしたりする中で、自分もできるようになりたいという思いが生まれたためと考える。

(2) 課題

本年度の重点目標については、おおむね満足できる結果となった。しかし、挨拶については、次の段階として、より心のこもった挨拶をできることが求められるという意見があった。また、アンケートにおいて「来年度の重点目標として取り組んでいきたい児童の姿」として、挨拶の継続とともに「相手のことを考えられる子供」という意見が多数あった。実際、子供たちが挨拶する姿を見ていると、「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」は言えるが、「ありがとう」「ごめんなさい」等の自分の気持ちを相手に伝える挨拶は不十分であったりする。また、友達との関わりの中で、相手を傷つけてしまう言葉を使っている姿も見られる。このようなことから、より心のこもった挨拶も含め、「相手のことを考えて行動する」ことを、現在の課題と捉える。

6 平成31年度「協働型学校評価 重点目標と取組」について

「平成30年度学校評価アンケート結果」を基に、学校職員、学校関係者評価委員（PTA 本部役員を含む）で平成31年度「協働型学校評価 重点目標と取組」について検討し、以下の改善の方針に沿って進めていくことになりましたので、ご報告します。

【 改善の方針 】

- (1) 重点目標を一つにする。
- (2) 学校・家庭・地域で共通の重点目標とする。
- (3) 日常的に、継続的に、無理なくできる取組とする。

平成31年度 協働型学校評価 重点目標と取組			
学校教育目標	心と体がたくましく、進んで学ぶ人間性豊かな児童の育成		
	↑	↑	↑
学校教育目標を達成するための重点目標	関わる力の向上	学ぶ力の向上	体力の向上
	誰にでも公平に関わる子供	自分を高めようとする子供	自ら心と体を鍛える子供
	↑「関わる力の向上（誰にでも公平に関わる子供）」を数年度に渡る 協働型到達目標 とする		
当該年度の重点目標	相手のことを考えて行動することができる児童の割合を80%以上にする。		
当該年度の重点目標を具現化した児童の姿	※学校・家庭・地域で目指す児童の具体的な姿であり、評価する際に指標とする姿		
	↑	↑	↑
当該年度の重点目標達成を実現するために協働する3者の具体的な取組	学校	家庭	地域
	※それぞれの立場で、日常的に、継続的に、無理なくできる取組		

今後、上表の「当該年度の重点目標を具体化した児童の姿」「当該年度の重点目標達成を実現するために協働する3者の具体的な取組」について検討を進め、4月25日（木）のPTA総会の際にご報告します。このことについてご意見ご質問等ありましたら、教頭（277-3581）まで、ご連絡願います。

平成 30 年度 学校評価アンケート 結果

項目	No.	質問	評価者	評価 (%)				評価結果			
				とても	まあまあ	あまり	まったく	とても	まあまあ	あまり	まったく
生活	1	学校に来ることを楽しみにしているか	児童	45	40	11	4	45	40	11	4
			保護者	49	45	5	0	49	45	5	0
			地域	58	42	0	0	58	42	0	0
			職員	38	62	0	0	38	62	0	0
	2	誰にでも挨拶をしているか	児童	41	47	10	2	41	47	10	2
			保護者	24	58	17	1	24	58	17	1
			地域	30	48	22	0	30	48	22	0
			職員	21	65	15	0	21	65	15	0
	3	自分から挨拶をしているか	児童	47	39	10	4	47	39	10	4
			保護者	21	55	22	2	21	55	22	2
			地域	26	48	26	0	26	48	26	0
			職員	21	71	9	0	21	71	9	0
4	相手のことを考えて行動しているか	児童	40	48	9	3	40	48	9	3	
		保護者	22	66	11	0	22	66	11	0	
		地域	8	77	15	0	8	77	15	0	
		職員	3	97	0	0	3	97	0	0	
5	学校で責任をもって自分の役割を果たしているか	児童	56	36	6	2	56	36	6	2	
		保護者									
		地域									
		職員	17	83	0	0	17	83	0	0	
6	家庭で責任をもって自分の役割を果たしているか	児童	47	37	13	4	47	37	13	4	
		保護者	21	60	18	1	21	60	18	1	
		地域									
		職員									
学習	7	学校でしっかりと学習に取り組んでいるか	児童	64	32	3	1	64	32	3	1
			保護者								
			地域								
			職員	19	81	0	0	19	81	0	0
	8	家庭でしっかりと学習に取り組んでいるか	児童	58	33	8	2	58	33	8	2
			保護者	29	52	18	1	29	52	18	1
			地域								
			職員								
	9	進んで読書をしているか	児童	56	29	11	5	56	29	11	5
			保護者	30	39	24	7	30	39	24	7
			地域								
			職員	26	67	7	0	26	67	7	0

運動	10	めあてをもって 校庭で運動をしているか	児童	53	24	15	8	
			保護者					
			地域					
			職員	14	64	21	0	
	11	一日一回以上 校庭で運動をしているか	児童	59	19	14	9	
			保護者					
			地域					
			職員	29	46	25	0	
	12	歩いて 登校しているか	児童	75	18	5	2	
			保護者	80	15	3	2	
			地域					
			職員					
地域	13	地域の行事に 参加しているか	地域	38	50	12	0	
保護者 取組	14	子供の考えや気持ちを 引き出すような 接し方をしているか	保護者	13	70	18	0	
	15	子供との言葉遣いに 気を付けているか	保護者	20	62	18	0	
	16	子供に家庭で しっかりと学習に取り組むよう 働きかけをしているか	保護者	29	57	14	0	
	17	子供に朝食を とらせているか	保護者	88	10	1	0	
	18	子供を毎朝元気に 送り出しているか	保護者	76	21	2	1	
	19	子供に規則正しい生活を 送らせているか	保護者	44	49	6	1	
	20	子供に十分な睡眠時間を 確保しているか	保護者	55	38	7	1	
職員 取組	21	子供たちが誰にでも 挨拶をするよう 具体的な取組をしているか	職員	32	54	14	0	
	22	子供たちが自分から 挨拶をするよう 具体的な取組をしているか	職員	8	85	8	0	
	23	主体的対話的深い学びになるよう 具体的な取組をしているか	職員	12	65	19	4	
	24	子供たちがめあてをもって 校庭で運動をするよう 具体的な取組をしているか	職員	8	50	38	4	
	25	子供たちが一日一回以上 校庭で運動をするよう 具体的な取組をしているか	職員	21	50	25	4	

保護者 記述												
No.	1 学校に来ることを楽しみにするために	2 誰にでも挨拶をするために	3 自分から挨拶をするために	4 相手のことを考えて行動するために	5 家庭で責任をもって役割を果たすために	6 家庭でしっかり学習に取り組むために	7 進んで読書をするために	8 歩いて登校するために	来年度協働型重点目標			
1	学校で楽しんで来てねと言ってあげる。	地域の方と多く触れ合える機会を作れるように声を掛ける。	地域でも挨拶が当たり前になるようにする。	親が常に相手のことを考えて行動する姿を見せる。	何かしてくれたことに対して大げさにほめる。	本人に時間を決めて読ませる。	今月のおすすめの本を紹介する。	読前の15〜20分親と一緒に読書する。	友達と行くようにする。	相手のことを考えて話したり行動したりする。	礼儀正しくしゃべり、挨拶とありがとうが言える。	
2	いじめに目を光らせます。	挨拶の大切さを教えます。	人見知りやなくすようにしていきいかに楽しく挨拶をするように見せる。	親が常に相手のことを考えて行動する姿を見せる。	最後までやり切ることやほめること、感謝の気持ちを伝えたりする。	家庭での学習習慣が身に付くよう毎日声掛けをする。	何に興味があるかを知らせる。	読み終わったら次の本を買いに行く。	歩きやすい道路にする。	自分の考えや気持ちを伝えられるようにする。	学校が楽しい目標	
3	友達と遊ぶなど学校生活で一人の時間を作らない。	「挨拶されると地域の人たちが嬉しいって言うんだよ。」と言う。	親が進んで挨拶している姿を見せる。	友達と一緒に何かをすることの楽しさを味わわせる。	少しずつ役割を分ける。できたことをほめたり感謝の気持ちを伝えたりする。	少しくらいの役割を分ける。できたことをほめたり感謝の気持ちを伝えたりする。	短時間で学習させる。	一日10分本を読む時間を作る。	学校に置いていく教科書を増やす。	社会の一員として取り組んでいく。	相手の気持ちをよく考えて行動できる。	
4	気持ち考えられるように教える。	恥ずかしさを減らすようにする。	挨拶週間を設ける。	相手の立場を想像するようにさせる。	お手伝いを促す。	静かにする環境を整える。	興味を持ちそうな本と一緒に読んでみる。	図書室に行って読んだ本を借りて読む時間を作る。	安心安全な通学路を確保する。	友達の話を最後まで聞ける。	ごめんなさいやありがとうは相手の目を見て気持ちを込めて行う。	いろいろなことに意欲がある。
5	家で学校のことをよく聞く。周りの人にも聞いて把握する。原因を知って原	挨拶週間を設ける。	挨拶の大切さを繰り返し教える。	子供の気持ちを引き出す接し方ができるように自分にも自分にも良い行動をする。	毎日決まった役割を持つよう家庭で決める。	親と一緒に読む。	図書室の本を増やす。	家庭でのテレビ視聴時間を減らし、読書の楽しさを伝える。	スポーツのトレーニングの一つとして伝える。	相手のことを考えて行動できる。	自主的に取り組める。	挨拶と体力作り、地域に貢献できるボランティア活動
6	学校に行くことが楽しみと思える活動を入れる。	挨拶の大切さを繰り返し教える。	挨拶できるように声を掛ける。	機会ごとによい行動することが相手に自分にも良い行動をする。	決まったお手伝いの習慣(時間や仕事の内容)をつける。	ゲームやテレビなどのメディアから離す。	図書室以外の本に触れる機会を増やす。	親も読書する姿を見せる。	「今朝の外の景色は」と登校で見たこと気付いたことを書く。	自分から進んで行動し、発信ができる。	協調性をもち思いやりをもち人に優しくできる。	積極的に挨拶、声掛けできる。
7	学習で上手にできたと思える自信をもてるようにする。	笑顔の多い地域になる。	大人が見本となる。	コミュニケーション能力を身に付けさせる。	お手伝いをさせる。	休日も含めて課題を出す。	図書室の本で読書をする。	学校に置いていく教科書を増やす。	一人で行動できる。	思いやりがある。	低学年を助ける。	
8	次の日何をするか遊びや給食など具体的にイメージできるようにする。	親が手本になって自ら挨拶する姿を見せる。	大人から積極的な挨拶をする。	思いやりを意識させる。	家庭で一つでも毎日の仕事をこなさせる。	学校の宿題を勉強と思っていなくて、テキストをさせる。	親が子供が読書したくなるように声掛けしたり一緒に図書館に行ったりする。	家庭でも読書の時間を作る。	5教科を毎日持ち歩く子供の体への負担を減らす。	挨拶や感謝の言葉、思いやりの言葉が素直に言える。	恥ずかしがらずに挨拶できる。	失敗を恐れず何にでもチャレンジできる。
9	勉強が楽しいと思えるようにする。	地域の人との関わりをどう話すべきか悩む。	家庭内で挨拶を促す。	自分だったらどう行動するか、自分から声を掛けてみる。	手伝いをやりやすいように考えを提示する。	時間を決めて取り組ませる。	感想文を書く機会をもつ。	時間にゆとりをもたせる。	時間に余裕をもって行動準備をする。	自発的に挨拶したり、声掛けしたり、自分の意見や気持ちを発言したりできる。	読書の時間を大事にする。	思いやりのある。
10	帰宅後の目標を達成させる。	会話が出来るようになる。言葉も言えるというね」と話す。	繰り返し教える。	相手の気持ちを考えるから行動するよう伝える。	手伝いの後助かることを伝える。	欲張りせず短時間にする。	家庭で時間を作る。	朝の10〜15分まで読書する時間を作る。	感謝の気持ちを伝えて生活できる。	失敗を恐れずチャレンジできる。	好きなことに熱中する。	
No.	1 学校に来ることを楽しみにするために	2 誰にでも挨拶をするために	3 自分から挨拶をするために	4 相手のことを考えて行動するために	5 家庭で責任をもって役割を果たすために	6 家庭でしっかり学習に取り組むために	7 進んで読書をするために	8 歩いて登校するために	来年度協働型重点目標			
11	友人と一緒に登校させる。	親が挨拶する姿を見せる。	習慣化するよう根気強く声掛けする。	常に相手の気持ちになって考えるよう声掛けする。	何か一つでもお手伝いを習慣にさせる。	ゲーム1時間や家庭での読書の時間を作る。	子供同士での紙芝居の音読会を行う。	元気よく学校に行ける。	学校での出来事や行動を話せる。	進んで挨拶できる。		
12	分からないことを聞きに行きやすいように大人が変える。	挨拶は恥ずかしくないように教える。	多くの人と接し体験させる。	子供間で問題があったことを子供たちでシミュレーションし、両方の気持ちに共感させる。	お小遣いをもらい、毎日できるお手伝いを考えさせる。	夕飯前に宿題をやるよう声掛けする。	クラスで読んだ本の数を競わせる。	図書館で本を借りる。	自分の苦手なことに挑戦しようとしてみる。	家庭学習にしっかり取り組む。	能動的に行動できる。	
13	朝明かい声掛けで送り出す。	大人から積極的な挨拶をする。	子供の様子を見て挨拶を促すよう声掛けする。	自分が相手の立場だったらどうするか考えさせる。	毎日同じお手伝いをお願いする。	ホワイトボードに両面グラフネットで作ったカードに書いたカードを終わったら裏にする。	一緒に図書館に行き本人の傾向を知る。	本人の興味を持たせる。	相手の目を見て元気よく挨拶する。	自ら進んでボランティア、お手伝いできる。	相手の思いやりの気持ちを考え行動する。	
14	気に掛けて声を掛けられる場所だと印象付ける。	親が挨拶する姿を見せる。	できないことで責められないようにする。	いろいろな世代の方と触れ合う行事に参加させる。	壁に役割を書いた貼る。	時間の確保、声掛け、テレビの時間を減らす。	友達がよく読む本を教えてもらう。	読書の楽しさを教える。	失敗を恐れずチャレンジできる。小さなことを当たり前にできる。	ごみを拾う、掃除をする、節電するなど、小さなことを当たり前にできる。	十分な食事と睡眠をとり元気に活動できる。	
15	声掛けをして手本を示す。	できたらほめてもらう。	集団の中の一人としてどうあるべきか指導する。	自分のことは自分で責任をもって行動するよう声掛けする。	宿題を増やす。	本の関わりをもたせる。	誕生日やクリスマスのプレゼントを本にする。	自信をもって活動する。	相手の心を気づかせる。	自主的に行動し礼儀正しく安全に楽しく学校生活を送る。		
16	親も姿勢をきちんと見せる。	朝先に挨拶したら1ポイントとし、班で毎朝合計ポイントを発表するゲームにする。	親からその姿を見せる。	周りを手を見て貸す姿勢を身に付けさせる。	やることを決める。	休日図書館に行く。興味を持ちそうな本から接するようさせる。	本人の好きなことを学べる本から読ませる。	自身も相手も大切だと思え、相手のことを考えて行動できる。	学習に取り組める。	忘れ物をせずプリントをきちんと出せる。		
17	大人から積極的な挨拶をする。	挨拶運動を続ける。	立ち止まって考える時間、互い(学校・家庭・地域)が何を思っているか知る時間を作る。	声かけせずにやられる家庭での役割を家庭で話し合う。	連絡帳をしつかり確認し見合わせる。	子供の好きな分野の本を勧める。	家で読める。	他者を思いやれる。	互いの考えを伝え合い相手のことを考えて行動できる。	自立し相手の気持ちを考え行動できる。		
18	できないことで責められないようにする。	地域の方からも声掛けする。	比べて評価するのではなく、自己肯定感を育てる。	「手伝いをしよう」とを宿題とする。	テレビをつけたい日を作る。	雨の日の朝や休みの時間に読書タイムを設ける。	朝の時間や帰りの会までの時間を読書にあてる。	地域の人々に進んで挨拶ができる。	学習面、生活面においてトラブルのない誰とも仲良くできる思いやりのある心をもつ。	挨拶でき、素直である。		
19	できたらほめてもらう。	普段から家でも挨拶をするよう声掛けする。	普段から家でも挨拶をするよう声掛けする。	お手伝いの担当を決め家族はチームと教える。	親と一緒に勉強、課題に取り組む。	読書をたくさんした子を表彰する。	親も読書する。	自ら進んで挨拶ができる。	個々の個性や違いを認め合える。	外で体を動かして遊ぶ。		
No.	1 学校に来ることを楽しみにするために	2 誰にでも挨拶をするために	3 自分から挨拶をするために	4 相手のことを考えて行動するために	5 家庭で責任をもって役割を果たすために	6 家庭でしっかり学習に取り組むために	7 進んで読書をするために	8 歩いて登校するために	来年度協働型重点目標			
20	朝先に挨拶したら1ポイントとし、班で毎朝合計ポイントを発表するゲームにする。	親が挨拶する姿を見せる。	親からその姿を見せる。	自分でできることは一人できるとさせる。	具体的な役割を分ける。	子供のそばにいて取組を見守る。	子供の好きな本を一緒に読む。	移動図書館で本を借りる。	朝読書	読書がしっかりとできて、自分の考えをきちんと堂々と発表できる。		
21	大人から積極的な挨拶をする。	立ち止まって考える時間、互い(学校・家庭・地域)が何を思っているか知る時間を作る。	親が挨拶する姿を見せる。	自分でできることは一人できるとさせる。	具体的な役割を分ける。	子供のそばにいて取組を見守る。	子供の好きな本を一緒に読む。	移動図書館で本を借りる。	朝読書	読書がしっかりとできて、自分の考えをきちんと堂々と発表できる。		
22	親自身が外で挨拶する姿を見せる。	立ち止まって考える時間、互い(学校・家庭・地域)が何を思っているか知る時間を作る。	親が挨拶する姿を見せる。	自分でできることは一人できるとさせる。	具体的な役割を分ける。	子供のそばにいて取組を見守る。	子供の好きな本を一緒に読む。	移動図書館で本を借りる。	朝読書	読書がしっかりとできて、自分の考えをきちんと堂々と発表できる。		
23	挨拶運動を続ける。	立ち止まって考える時間、互い(学校・家庭・地域)が何を思っているか知る時間を作る。	親が挨拶する姿を見せる。	自分でできることは一人できるとさせる。	具体的な役割を分ける。	子供のそばにいて取組を見守る。	子供の好きな本を一緒に読む。	移動図書館で本を借りる。	朝読書	読書がしっかりとできて、自分の考えをきちんと堂々と発表できる。		

24	地域の方からも無理強いわず見守ってあげる。			子供と向き合い生活習慣やルールを身に付けていく。	自ら進んで勉強するように働きかける。	下の子に絵本を読んでもらうようお願いする。			皆で仲良く過ごす。	他人のことを考えて行動ができる。	本年度と同じ目標	
25	大人も進んで挨拶する。			お風呂掃除とか、毎日何か仕事をさせる。	宿題プリントを増やす。	習慣的に読書の時間をとるように心掛ける。			自ら進んで挨拶ができる。	自分が考え行動する。	社会の一員として頑張る。	
26	大人がしっかり挨拶する姿を子供たちに見せる。				一緒に学習する。	毎日一人ずつお題の本を紹介する発表の場を設ける。			自分の考えをしっかりと伝える。	思いやりの心がある。	基本的な生活ができる。	
27	親からその姿を見せる。					移動図書館の利用など学校の図書室にある本以外に触れる機会を作る。			挨拶の大切さを理解し思いやりの気持ちをもつ。	相手のことを考えた行動がとれる。	互いの考えを伝え合い相手のことを考えて行動できる。	
28	立ち止まって考える時間、互い(学校・家庭・地域)が何を思っているか知る時間を作る。					音読カードに書く欄を作る。	図書館に本を借りに行く。		何事にも進んで取り組もうとする。	かしこいと言われる。	進んで学びたくましく生きる力を養い相手の気持ちの分かる優しい心がある。	
29	親が挨拶する姿を見せる。挨拶の大切さを時々話す。				きちんとやるように声掛けする。	子供の目につく所に本を置く。			相手の顔を見て挨拶できる。	積極的に挨拶できる。	自分から進んで勉強、挨拶、お手伝いをする。	
30	無理強いわず見守ってあげる。				学習する環境を作る。	朝の読書を増やす。業間休みを利用して設定する。			しっかりと挨拶できる。	家庭では、早起き朝ごはん+	日頃から挨拶を大切にしている。	
№	1 学校に来ることを楽しみにするために	2 誰にでも挨拶するために	3 自分から挨拶するために	4 相手のことを考えて行動するために	5 家庭で責任を果たすために	6 家庭でしっかりと学習に取り組むために	7 進んで読書をするために	8 歩いて登校するために	来年度協働型重点目標			
31						子供が興味を持つ本と一緒に選ぶ。			相手の気持ちを考え思いやりをもった行動がとれる。	学校では毎日楽しく登校できる学級作り		
32						親子で話し合う。	図書館と一緒にいく。		いろいろなことを経験し自発的に学ぶ。	地域社会の人たちと積極的に関わること		
33						本人と話し計画を立てる。	家庭でも読書タイムを設ける。		挨拶する。	失敗を恐れず何事にも前向きにチャレンジする。		
34						宿題をする時間を決めてペナルティを与える。	寝る前に本の読み聞かせ。		読書する。	自ら考え行動し責任をもって最後まで取り組む。		

職員 記述

№	1 学校に来ることを楽しみにするために	2 誰にでも挨拶するために	3 自分から挨拶するために	4 相手のことを考えて行動するために	5 家庭で責任を果たすために	6 家庭でしっかりと学習に取り組むために	7 進んで読書をするために	8 めあてをもって運動をするために	9 一日一回以上校庭で運動するために	来年度協働型重点目標
1		大人が誰にでも挨拶することで手本を示す。	自分から挨拶する児童を日常的にほめていきたい。	子供にとってはなぜ相手がいかに思っているのかを教える。			朝の会や学級の時間、本の読み聞かせをしたりお題の本を紹介し合う時間を作ったりする。	体育の学習カードの充実と見直し。	高学年には難し書(委員会活動等)もあると思うので、時間を見て声掛けしていく。	思いやりの気持ちをもつ児童
2		大人が誰にでも挨拶することで手本を示す。					読書の時間の確保。その時々で関係のありそうなり組や環境、時間の活用を積極的に導入。国語の教材、理科の生物・事象等	子供が主体的に運動に取り組む場や環境、時間の活用、及び活動の工夫・推進	休み時間の校庭使用の決(運動の指定、スペースの確保、全校・異学年での取組など)	主体的に話し合うことができる。
3										「一日一回以上」校庭で運動というのは、6年生にとって難しいのではなかろうか?
4										進んで挨拶する児童
5										目標をもって運動する児童
6										自分から進んで挨拶できる児童の継続
7										今年度同様、人と豊かに関わり、たくましく生きる児童を育てていきたい。
8										自ら考え、学び、課題に向かい、解決しようとする児童

地域住民 記述

No.	1 学校に来ることを楽しみにするために	2 誰にでも挨拶をするために	3 自分から挨拶をするために	4 相手のことを考えて行動するために	5 地域の行事に参加するために	来年度協働型重点目標
1	一人一人の居場所を作る。	親が手本を見せる。	親が手本を見せる。	妊婦さんや赤ちゃん連れのお母さんから話を聞いたり赤ちゃんのお世話をしてみる。	家庭のお父さんお母さんが地域にもっと興味をもって子供たちを行事に誘う。	相手の顔をしっかり見て笑顔で元気よく挨拶ができる。
2	子供たちに先生から声掛けをする。	校内で子供同士、先生と子供の挨拶から。	近隣の大人子供も、向こう三軒両隣の人同士は挨拶する。	相手のことを考えて行動する日を決めてその行動をした子に発表する機会を与え皆に知らせる。	地域の将来を担う心を養う。	明るく元気に積極的な姿は高齢者の方々にとっても元気をもらえる。
3		地域の方々が率先して挨拶の声掛けを行う。	折に触れ挨拶の意味を伝える。	周りの大人が手本を示す。	当事者側のPRと親の理解度を上げる。	楽しみながら努力ができる子
4		初対面を大事にし、どちらかでも先に言う。	返事がなくても大人が続ける。	大人や両親が仲良くする。		明るく元気な子
5		返してくれるかどうかにかかわらず出会った大人が挨拶を心掛ける。	小中合同の挨拶運動を続ける。	大人が注意する。		人との関わりは挨拶から。たとえば、止まってくれた車にも。
6		家族で話し合う。	始めを大切にする。	思いやりの心を養う。		地域で自分から挨拶ができる。
7		大人から挨拶する。	返してくれるかどうかにかかわらず出会った大人が挨拶を心掛ける。			地域行事に参加することで、年長者からいろいろなことを覚えて心の広い児童。
8		大人から積極的に挨拶を心掛ける。	他人を信用する。			大人も挨拶できる。
9			大人から挨拶する。			挨拶ができる。
10						人前でしゃべれる。

学校関係者評価委員会 記録

平成31年2月7日(木) 11:00 ~ 13:00

出席者 【学校評議員】 金丸毅様 加藤和生様 伊東晶子様
【学校関係者評価委員】 齋藤和平様 長沼致弘様 傳伝千亜紀様(欠席)
平山久美子様 米澤ゆう子様 松浦優子様
【学校】 校長 教頭 教務主任

- 内容
- 1 授業参観
 - 2 報告 学校評価アンケート結果について
次年度の学校経営方針について
 - 3 協議 平成31年度 協働型学校評価 重点目標について

【平成31年度重点目標】

「相手のことを考えて行動することができる児童の割合を80%以上にする。」

- 重点目標の内容は良い。但し、「相手のことを考えて行動する」姿を具体化し、その姿を学校・家庭・地域が共有して取り組み、評価することが必要と考える。
- 重点目標を具体化した姿として、以下の姿が出された。
 - ・相手の気持ちを想像して声を掛ける。
 - ・相手が落ち込んでいるのを見掛けた時に声を掛ける。
 - ・相手の話を聞いて共感する。
 - ・相手と楽しいことを共有する。
 - ・相手と一緒に考える。
 - ・相手のことを考えて話す。
 - ・相手の話したことを言葉で認める。
 - ・自分の気持ちを伝える。
 - ・相手がどのような気持ちでいるか想像する。
 - ・嫌という気持ちになる基準や言葉に込めた意味は、それぞれに違いがあることを理解する。
- 実現するための具体的な取組として、以下の取組が出された。
 - ・本人が自覚できるよう、仲介的に関わる。
 - ・大人がまず手本を示す。